

～令和 6 年度「学生による授業評価アンケート」集計結果～

本校では学則第 26 条「自己点検および評価」に基づき、各専任教員の教育能力の向上にむけた取り組みの一環として学生による授業評価アンケートを実施しています。今年度は下記要領に基づき実施しました。今年度は Microsoft Foams によるアンケートフォームを作成しました。

1. アンケートの目的と調査対象

目的：学生の評価・意見から、本校の授業の実態を把握し今後の授業改善に役立てる。

対象：令和 6 年度実施の臨地実習で 1 単位以上のもの。

※今年度は令和 4 年 4 月から適用された「新カリキュラム」の完成年となる。新カリキュラムの改正趣旨に則り、本校では大幅に臨地実習の構成を見直した。それに伴い実習施設を新規に開拓し、内容や方法も大きく変更した。これを踏まえ、今年度は「臨地実習」に特化して授業評価アンケートを実施した。

2. アンケートの種類と回答方法

種類：「臨地実習」

回答方法：Microsoft Foams によるアンケート。URL または QR コードからアンケートフォームへのアクセスにより回答。アンケート内容は、4 段階尺度による評価（4：とてもそう思う、3：そう思う、2：そう思わない、1：全くそう思わない）および意見の自由記載。

3. アンケートの実施方法

- ❖ 原則として URL または QR コードは副校長が作成する。終講－実習終了－時（3 年生は前期・後期に分けて）に授業担当教員が URL または QR コードが記載された「『授業評価アンケート』へのご協力をお願い」の用紙を学生に配布する。
- ❖ アンケートは無記名とし、評価や自由記載の内容がどのようなであっても、成績には影響しないことを事前に学生に説明する。
- ❖ アンケート評価への参加は学生の自由意志であるが、教員の「教育能力の向上」「授業改善」のねらいに基づく活動であることを十分説明し、協力を得るようにする。
- ❖ アンケート結果は副校長が取りまとめ教員にフィードバックし、成果と課題を明らかにするとともに、カリキュラム運営及び改善につなげる。

4. 集計結果

①「臨地実習」の授業評価アンケート集計結果

今回、集計の対象とした臨地実習は以下のとおり。

- 2年生：基礎看護学…日常生活を支援する実習
成人看護学…セルフケア支援実習
- 3年生：地域・在宅看護論…地域の暮らしを支える看護実習
成人看護学…周手術期実習
小児看護学・母性看護学…小児・母性看護学実習
精神看護学…精神看護学実習

「臨地実習」－評価項目	平均値
1) 自分はこの実習で自己の課題を明らかにし、目標が達成できるよう努力した	3.5
2) 自分はこの実習でグループの一員として協力して取り組んだ	3.7
3) 事前オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った	3.3
4) 病棟・部署・施設のオリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った	3.4
5) カンファレンスでは、教員から適切な助言・指導が得られた	3.5
6) 実習記録（行動計画・看護過程・臨床判断・気づきのリフレクション・プロセスレコード等）について、教員の指導は適切だった。	3.4
7) 教員は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた	3.1
8) 教員は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた	3.2
9) 各実習施設・部署において、指導者から適切な助言・指導が得られた	3.3
10) 指導者は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた	3.1
11) 指導者は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた	3.0
12) 実習では、教員と指導者間で指導の方向性がずれないように連携がとれていた	3.3
13) 実習施設・病棟・部署は学生を受け入れてくれる雰囲気だった	3.0
14) 実習に必要な物品、記録する場所、カンファレンスの場所、私物置き場、休憩室などは確保されていた	3.0
15) 全体として充実した実習だった	3.5
＜評価項目の平均＞	3.3

②自由記載より－学生の声（一部抜粋）

※複数の学生から寄せられた意見で、内容がほぼ同様のものは1～2つの意見を“代表例”として記載しています。なお、個人情報保護の観点から、個人や場所（実習施設・部署）が特定される記述内容は掲載しておりません。

- 患者さんの個性にそった援助とは、必ずしも教科書と同じではないということを学んだ。
- 必要物品が足りない。事前にどんな物品があるのか提示してほしい。
- 学校から、どういう物品を病院にもっていくか事前に知りたい。病院から借りなくてはならないものを事前に把握しておきたい。
- （小児・母性看護学実習がシームレスになったことについて）対象を子どもだけでなく、親や家族にも目を向けることができ一貫して学ぶことができた。
- アセスメントや関連図による土台を作ることで、適切な計画や介入の個性性につながるものがわかった。

- 個別性に応じた看護過程の展開ができた。看護計画は自分から見た優先順位で立てるのではなく、患者さんが望む理想とする姿に近づくためにどんなことをしたらよいのかを優先的に考えることが理解できた。
- 体温計が古く、測るのに5分かかるので新しいものに変えてほしい。
- 感染症にかかりやすい病棟に配置しないようにしてほしい。次に受け持つ患者が決まらずどうしたらいいか分からず困った。
- 病棟によって終了時間が異なっていた。行動調整を早めにして実習時間内に終わるようにしてほしい。
- 実習終了が4時30分なのに、学生控え室に就いたのが5時15分というのは大変だった。
- 実習記録は数日分をまとめて返却するのは避けてほしい。
- 実習最終日になって計画立案に戻って指導されてもすでに計画に基づいて援助を実施しているので、どうしようもない。タイムリーな指導をお願いしたい。

5. 集計結果の考察と課題

- 本評価においては4段階評価による最高点「4」の7割(2.8)を基準と考える。今回、評価項目すべてが基準を上回り評価平均が3.3であった。この結果から、おおむね合格基準に達する評価が得られたと判断する。
- ●の4つの意見については、教務会議に議題として提出し全教員で共有した。各教員が自分のかかわりについて、改めて振り返る機会となった。会議においては「単位の成り立ち」の観点から、学習を目的とした拘束時間についてしっかり認識する必要があることを再確認した。また、臨地実習は無資格者の学生が実際に現場で展開されている看護の一部を実施することを通して学びを深める授業形態である。その特殊性を踏まえ対象者の安全・安楽を第一に考え、併せて看護における倫理原則に照らしたとき、実習時間の『時間外』であっても指導・助言を行わなくてはならないこともありうることを、学生には事前のオリエンテーション等で十分に説明しておく必要があるものと考え。なお、『時間外』の指導を行う場合、教員は当該学生にその理由を説明し、同意を得なくてはならないことは言うまでもない。また、実習記録の返却や指導のタイミングについては、学生の学習成果－実習目標の達成－に繋がるものでなくてはならない。とりわけ、臨地実習は対象者(患者)の変化に応じた援助が必要であるため、時機を逸しない指導を行っていく。これは、対象者(患者)の安全・安楽の確保、および学生の学習権の保障のうえでも重要なことと認識する。

<アンケートご協力の御礼>

今回、授業や学習環境を見直すための貴重な意見を多くお寄せいただきありがとうございます。この意見は関係各所と共有いたします。指導方法等に関することは全教員が自分事として受け止め、「学生に何が学ばれたか」に価値を置く授業の展開を目指して参ります。

